

AllFusion ERwin Data Modeler 4.1.4

品質保証レポート

--- 必ずお読みください ---

AllFusion ERwin Data Modeler 4.1.4(以下、ERwin 4.1.4と称す)には、以下のような使用上の制限事項がございます。使用中に何らかの不具合などが発生した場合は、erwin@jsys-products.comへメールでご一報ください。

AllFusion Model Manager(旧 ModelMart)との連携に関する警告

ERwin 4.1.4には、ModelMart 3.0.2との連携に関する互換性がありません。ERwin 4.1.4と共にAllFusion Model Managerを使用する場合は、AllFusion Model Manager4.1.4を使用してください。

使用上の注意

全般

- ▶ ERwin 4.1.4では以下のサイトにおいて修正パッチおよび修正パッチの内容に関する情報が提供されております。修正パッチに関して最新の情報はこちらのサイトをご参照ください。

AllFusion ERwin Data Modeler技術情報サイト: <http://www.caj.co.jp/support/erwin/>

フォワード エンジニアリング/リバース エンジニアリング、および完全比較

- ▶ Oracleデータベースの文字コードセットがEUCに設定されている場合、リバース エンジニアリングおよび完全比較の際にORACLEエラーが発生し、リバース エンジニアリングおよび完全比較ができない場合がありますので注意してください。この問題については将来のバージョンで修正される予定です。
- ▶ Oracleデータベースに対してフォワード エンジニアリングを行う際、モデル上で選択したデータ型はデータベース実装時に以下のように変換されます。

| [モデル] | [データベース] |
|-------------|----------|
| CHARACTER | CHAR |
| DECIMAL | NUMBER |
| INTEGER | INTEGER |
| LONGVARCHAR | LONG |
| SMALLINT | INTEGER |

- ▶ 完全比較で選択可能な[シンクロ アクション]グループの比較オプションが、最初に比較する際と[戻る]ボタンで設定画面に戻った際に異なる場合があります。最初に比較する際に選択できるオプションが有効なオプションとなるため注意してください。
- ▶ デフォルト ドメインの定義を変更した場合、対象データベースにOracleを選択して完全比較を行うと、ERwinのドメインが相違点として検出されます。これをエクスポートするとOracleに対して無意味なシンタックスが生成されるため相違点は無視してください。
- ▶ 論理/物理モデル(Classic ERwinモデル)から新規モデルの導出機能を使用して物理モデルを作成し、導出されたモデルと元のモデルでER1同士の完全比較を行うと、変更点がない場合でも相違点が検出される場合があります。このような場合、相違点は無視してください。

- ▶ Oracleデータベースからバリデーション ルールをインポートすると、ERwin側に同名のバリデーション ルールが作成されることがあります。これは、ERwinが設計上、同じバリデーション ルールを複数のカラムへアタッチすることを認めていること、Oracleデータベースがカラムごとに制約(ルール)をアタッチできる構造になっているために発生する現象です。ERwinはOracleデータベース側のカラムにアタッチされる制約を常にユニークなバリデーション ルールと見なします。つまり、完全比較などで内容に相違点が発見された場合には、その都度別のバリデーションとしてインポートします。その時にインポートするOracleデータベースの制約名と同じバリデーション ルール名が存在しても、ほかのカラムにそのルールがアタッチされている可能性があるという理由から上書きはしません。そこで、まったく同じ名前のバリデーション ルールをもう一つ作成します。ERwinはバリデーション ルールの内容によりアタッチするカラムを判別するため、この状況が発生しても問題はありません。
- ▶ データベースとの完全比較で検出されたテーブル パーティションの相違点は、インポートすることしかできず、エクスポートできません。エクスポートするには、対象データベースから一度リバース エンジニアリングを行ってダイアグラムを作成し、ファイル同士の完全比較を行って相違点をインポートした後に、該当テーブルをフォワード エンジニアリングしてください。
- ▶ データベースとの完全比較で検出されたOracleシーケンスの相違点はインポートすることしかできず、エクスポートできません。エクスポートするには、対象データベースから一度リバース エンジニアリングを行ってダイアグラムを作成し、ファイル同士の完全比較を行って相違点をインポートした後に、シーケンスのみをフォワード エンジニアリングしてください。
- ▶ データベースとの完全比較では、データベース側のテーブルのカラム順序とテーブルの物理カラム順序が異なることがあります。この現象は、ERwinでカラム順序と物理順序が異なるテーブルを生成した場合に発生します。データベース側のテーブルのカラム順序の相違は無視してください。
- ▶ 物理モデル同士の完全比較を行う際、デフォルト オプション セット内に意味不明な比較項目が表示されます。この不明なオプションは無視してください。
- ▶ Oracleデータベースから降順が指定されているインデックスをリバース エンジニアリングすることができません。また、データベースとの完全比較では、降順が指定されているインデックスの相違点が発見されません。この問題については将来のバージョンで修正される予定です。

レポート機能

- ▶ RTBを使用してレポートを生成する際にフォント サイズの指定を行うことができますが、フォント サイズの指定を直接入力により行った場合、指定値が保存されない場合があります。フォント サイズはリスト ボックスから選択してください。
- ▶ RTBを使用してレポートを生成する際、ダイアグラム上のカラム順序とレポートのカラム順序が異なる場合があります。ダイアグラムと同じ順序でカラムをレポートするには、データ ブラウザ機能を使用してください。
- ▶ RTBを使用してレポートを生成する際、オプションのチェック ボックスやフィルタ機能をオンにしても、オプションが機能せず、レポートが生成されない場合があります。機能しないオプションは、データ ブラウザ機能で補完してください。
- ▶ RTBのレポート生成オプションに同じ項目が重複して存在する場合があります。オンにする場合は、いずれかのオプションをオンにしてください。どちらも有効です。
- ▶ RTBでレポート オプションを選択する際に、選択できないオプションがあります。このような場合は、いったんすべてのオプションのチェック ボックスをオフにしてからやり直してください。
- ▶ RTBを使用してレポートを生成する際に、選択したオプションの数が多い場合や、レポート オプションの組み合わせによってはERwinが異常終了する場合があります。異常終了時にはレポート オプションが保存されないため、レポートを生成する前にRTBファイルを保存してください。
- ▶ データ ブラウザの [レポート] ダイアログ ボックスでオプションの最上位のノードを右クリックし、ショートカット メニューの[すべて選択]をクリックして作成したレポートは、データ ブラウザ上のパフォーマンスが遅くなる場合があります。パフォーマンスを改善するには、出力オプションを絞り込んでください。

その他

- ▶ モデル名前付けオプションで各オブジェクト名の最大長を指定することができますが、シングルバイト文字/ダブルバイト文字のどちらも1文字として認識されるため注意してください。
- ▶ モデル名前付けオプションで指定可能な特殊文字の取り扱いに関するオプションが機能せず、使用により他の文字列などに悪影響を及ぼす恐れがあるので、このオプションのチェックボックスは常にオフにするよう注意してください。

お問い合わせ先

日揮情報ソフトウェア株式会社 テクニカル サポート

TEL: 045-474-7856 (受付時間 10:00 ~ 12:00および13:00 ~ 17:00 土日祝休日を除く)

productsupport@jsys.co.jp

<http://www.jsys-products.com/>